

## 第6回 豊岡市立小中学校適正規模・適正配置審議会 議事録（要旨）

- 1 日 時 2021年1月19日（火） 14時00分～15時00分
- 2 場 所 豊岡市役所本庁舎 3階 庁議室
- 3 出席者 《委員》（委員名簿順） 18名中16名出席（欠席2名）  
浅野 良一会長、西谷 佳代委員、中島 章博委員、河本 美佳委員、宮崎 裕紀委員、二方 道正委員、平尾 洋委員、澤田 雅子委員、小田 知子委員、高階 正夫委員、増田 克志委員、加藤 勉委員、綱木 直美委員、貝口 志保委員、藤田 明治郎委員、木村 尚子委員  
（欠席）中川 茂副会長、西垣 浩文委員  
※浅野良一会長はWeb会議システムにより出席  
《事務局》  
嶋 公治教育長、堂垣 真弓教育次長、飯塚 智士こども教育課長、木下 直樹こども育成課長、永井 義久教育総務課長、木之瀬 晋弥参事兼課長補佐、野崎 律男学校再編推進室長、細田 正徳係長、太田垣 輝尚主任
- 4 傍聴者 非公開につき傍聴者なし
- 5 主な内容
  - (1) 挨拶  
浅野会長から挨拶  
※ 内容については、「6 主な発言内容等（要約）（1）挨拶」のとおり
  - (2) 議事  
※ 冒頭、第5回及び第6回の議事録については、答申案についての具体的な審議部分については非公開とすること、また、会議資料についても、答申案にかかる部分については非公開とすることが第5回審議会において決定されている旨が確認された。  
ア 報告事項  
事務局より、財政課に学校跡地利活用担当が配置されたことを報告した。  
※ 委員からの質問等については、「6 主な発言内容等（要約）（2）報告事項に対する質問等」のとおり  
イ 協議事項  
(ア) 答申(案)について  
※ 委員からの質問等については、「6 主な発言内容等（要約）（3）協議事項」のとおり
- 6 主な発言内容等（要約）
  - (1) 挨拶  
《会長》  
皆さんこんにちは。本日は、本県にも緊急事態宣言が出ておりまして、大学からも出張自粛の指示もありましたので、リモートでの参加とさせていただきます。思い返せば、この審議会は、昨年5月頃には学校に行き行って複式学級の様子を視察する予定になっていましたが、第1波の頃でそれも叶わず、ビデオで授業の様子を見ました。夏から秋にかけての意見交換会は、対面でいろんな方のお話が聞けて、何とか無事にここまで来ることができました。た

だ、最後の最後にまた感染症が広がったことで、今回の審議についてはリモートでの会議となりましたが、より揉んでいきたいと思っておりますので、本日もよろしく申し上げます。

《会長》

議事に入ります前に、1点、確認させていただきます。第5回の審議会で、第5回と第6回の審議内容は答申の具体的な部分であることから、議事録については、答申案の具体的な審議部分は非公開とすること、もう一つは、資料についても、答申案にかかる部分は非公開とすることといたしました。その旨、ご理解いただき、闊達な議論をお願いしたいと思っております。

(2) 報告事項に対する質問等

学校跡地利活用担当の配置について

《会長》

市に、新たに学校跡地利用の担当者が置かれ、今後、教育委員会とは別の部署で調整が進められるという報告であった。この件については、報告事項であり、具体的には今後進められるということである。

(3) 協議事項

ア 答申（案）について

《会長》

それでは、次の議事に進む。今回の協議事項の答申（案）について、事務局から説明をお願いしたい。

(答申の具体的な審議の部分につき、非公開)

《会長》

議事としては以上である。

(4) 閉会挨拶

《会長》

これまでの会議に出た感想や今回の事案についての感想を3点ほどお話しします。

適正規模・適正配置については、日本全国で子どもの数が減っている中でこういった審議会が増えています。どの会もそうですが、正解はありません。正解はありませんが、今の段階で将来を見据えて、ある程度満足できる答えを出さなければなりません。ただ、今回、豊岡市の会議を見ていると、非常に丁寧に進めておられるという印象を受けています。つまり、教育委員会からこういうことをやりたいんだということを出して、それについて意見はないかという会も他の自治体では多いですが、そうではなく、教育委員会ではこう考えているがどうだろうと、委員の方から丁寧に意見を集め、地域の方、保護者の方に意見を求め、とにかく手を掛けながらプロセスを追っておられる。これは、正解がない中で一つの答えを出すやり方である

など感心しています。

2点目は、今回話題になったように、統廃合して大きくする、あるいは施設一体型小中一貫校にするというやり方で全国的に進んでいます。ただ、新型コロナウイルス感染症のことをみると、よく言われる「Society5.0」というか、「個別最適化の教育」というのが新たに出てくる可能性があるという感じがします。「数が少ないからこうしないといけない」という今までのある一方向の答えだったのに対し、何か新しい観点の答えが、この2、3年のうちにアイデアとして出てくるかもしれないという気がします。今回は10年、15年先を見据えた案を出していますが、希望的な観測ではありますが、この間に、ただ単に統合するという以外の手立てが出てくると、非常に好ましいと思います。こういった変化の時に新しいアイデアが比較的出てきやすいと一般的によく言われますので、それをぜひ待ちたいと思います。

3点目は、どの地区でもそうですが、学校はやはり地域のものであります。先生も当然学校におられますが、先生は旅人です。学校は地域のものであり、地域の方がどう学校を大切にしていけるか、そこに通っている子どもたちを、広く重要な資源としてどう守り育てていくにはどうすればいいか、それは、この審議会でも話がありましたが、子どもの学びが保証できなければ、地域がいくら愛しても学校はうまくいきません。子どもの学び、子どもの社会性、本市で言う非認知能力などを地域で育てていくんだという意気込みで、いい学校としてバトンタッチしていくというのがこの会の趣旨ではないかと思えます。

今回、委員の皆様は高い見地からご覧になられて、かつ、自分の現場感覚と肌感覚を大事にされながら、いろんな前向きな意見をいただきました。おそらく今回答申ができたのも、皆さん方の、地域からの、学校を大切にし、子どもを大切にし、今後の豊岡を担う子どもを育てようという気持ちのほとぼしりではないかと思いました。

まだもう一回、次回がありますが、今回の答申を市民の皆さんと共有して、「さあやるぞ」「もう一回行くぞ」となって頑張っていただければいいのかなと思います。幸い、平田オリザさんが来るなど、豊岡には追い風が吹いています。それに乗ってこの審議会の答申をとにかく前に進めて、いい学校づくり、いいまちづくりに邁進いただけたらと思います。

本日はお忙しい中、また、緊急事態宣言の中、お集まりいただきありがとうございました。それではこれで本日の会議を終わります。

ありがとうございました。

以上